

森 康行 監督作品

Workers

ワーカーズ



みんな
みんなで働く
みんな
みんなで生きる

「あたらしい働き方のはなし」



ワーカーズ Workers

成果主義・効率優先・格差・貧困・孤立がすすむなか、働くことに生きがいを持ってない時代。それでも国は経済成長を最優先課題として拡大再生産を繰り返し、グローバル化に突き進んでいます。働く場を求めても他人と比べられ、選別され、未来への希望が見出せなくなっている若者たち。いつどうなるかもわからない非正規雇用の蔓延。そして居場所さえ失う人たちと、大きな不安が私たちに覆っています。このような時代、私たちは何を求め、未来をみつめていくのでしょうか。世の中をめまぐるしい変化の中で、あらためて人と人、地域、社会との結びつきを再生することが求められています。

自分たちの明日を自分たちで耕しはじめている人々があります。雇う者、雇われる人と言う関係ではなく経営方針から地域に必要な仕事おこしまで、一つ一つをみんなで決めていく…ちょっと面倒臭い、けど、てんてこ舞いしながら話し合いを繰り返すなかで、「ハタラクイガイ」や「キズナ」が育まれます。どこかにある桃源郷ではなく、地域の中に溶け込んで、こころを合わせ、力を合わせ、助け合って働いていく。そこには新しい時代にむけてのかすかな光への芽生えがありました。

**「小さな共生社会」をつくる新しい働き方
スカイツリーの下で繰り広げられる
まちの人々とワーカーズコープの物語**





製作者からの
メッセージ



「地域社会をよりよくしたい
そんなことのために働く事が出来る。
その事実を映像にして欲しかった。」

私たちは社会の困難と向き合い、協同労働を通じて少しでもよりよい方向へ社会を創っていきたい。そう念じて仲間-組合員は地域で奮闘している。
その努力はしかし思うようによい結果を出すとは限らない。
ひたすら努力をしても迷い、自らを疑うことの方が多いかも知れない。そんな日々が多くの組合員のところでは、その努力している地域では続いているとわかっていく。
地域では真摯に社会のために活動している人、地域のためにと経営する中小企業や様々な団体の方々が多く存在する。しかし、そうした努力が必ずしも結び合ってさらに大きな力となり、地域力となって高まっているという例はそう多くない。それぞれが孤立したとりくみになって続いているというような状態の場合がむしろ普通になっている気がする。地域の分断状態である。
もしこれが有効にネットワークされれば、どれだけ多くの人が地域社会にとって必要な存在となり、もっと大きな有効な力を発揮する主体に育つはずだと思う。むしろ、そうしたネットワークの形成を地域は待っていると思うようになっていた。
そんな時、ひらめきとでもいうのだろうか、墨田の地域の私たちの営みと地域の人々のいまのあり様をありのままにみてみる事ができたなら、大きなヒントがみんなに与えられるようになると思った。いわば、映像の力で墨田の協同の営みを焦点にして俯瞰してみればどうだろうかと思い、森監督にお願いした。
監督にお願いして、完成は2012年6月の総会・総代会までにとしたので、6~7ヶ月で、と無理な相談だった。そんなこともあってスムーズに映画の製作が進むためにも必要と思い、墨田区長にもお願いし、区長さんからは「できることは協力する」と快諾を得て、公共施設での撮影もスムーズにいったと聞く。
この映画づくりのとりくみ自身の中で、あたらしい協同の地域のネットワークが新しく生まれ、育つように思う。

映画『ワーカーズ』企画・原案 **永戸 祐三**



【プロフィール】永戸 祐三 (ながと ゆうぞう)

昭和22年8月23日、京都府生まれ。中央大学第二法学部卒業。
昭和52年、全日本自由労働組合本部入職。昭和57年、中高年雇用福祉事業団 全国協議会 事務局長。平成7年、日本労働者協同組合連合会 理事長。平成17年、日本労働者協同組合連合会 センター事業団 理事長を経て、現在、日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会 理事長、「協同労働の協同組合」法制化をめざす市民会議 会長代行。

■映画：市川準監督作品『病院で死ぬということ』企画。森康行監督作品『ワーカーズ』企画・原案。
■趣味：激務の合間に、職場でカレーやしめ鯖を沢山作り振る舞う。仲間達の美味しい笑顔が安らぎのひと時。



製作・著作
日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団
配給
一般社団法人 日本社会連帯機構 / 日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会

労働者協同組合（協同労働の協同組合）とは、ワーカーズコープやワーカーズコレクティブとも呼ばれる協同組合の一形態であり、働く労働者自身が主として資金を持ち寄り、経営も労働も担う。世界的には多くの国で法律が整備されており、イタリアやイギリスなどヨーロッパでは、地域社会の困難や高齢者・障がい者・薬物中毒の方の働く場づくりなど、地域社会活性化の担い手としてなくてはならない存在となっている。日本では、約5万人がこうした形態で働いており事業高は約300億円と言われている。
日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団は、日本における労働者協同組合（協同労働の協同組合）のモデルとなることを目的に1987年に設立され、全国各地で清掃や公園の管理など自治体からの委託事業を柱に事業を展開。以後、介護保険をはじめとした高齢者介護、コミュニティセンターや高齢者福祉センターなど公共施設の管理・運営、保育園・学童クラブ・児童館・児童デイサービスなど子育て支援、若者や障がい者・失業者などの就労支援など幅広い取り組みを「7つの原則」と「3つの協同」にこだわり、働く者と市民の手で地域に必要とされる仕事おこしと、まちづくりをおこなってきた。また、一般社団法人日本社会連帯機構を設立して、事業だけでは解決できない地域の課題に、住民同士の連帯の力で取り組もうとしている。現在、全国に15の事業本部・開発本部をおき、約300の事業所で約7400人が就労し、全国のそれぞれの地域で活動している他の労働者協同組合等26団体と日本労働者協同組

合（ワーカーズコープ）連合会を構成している。日本に労働者協同組合を規定する法律がない中で、特定非営利活動法人ワーカーズコープと企業組合労働者協同センター事業団の2つの法人格を取得して事業をおこしつつ、「協同労働の協同組合法」の制定に向けて連合会とともに働きかけをおこなっている。

★7つの原則

- 第1原則：働く人びと・市民が、仕事をおこし、よい仕事を発展させます。
- 第2原則：すべての組合員の参加で経営を進め、発展させます。
- 第3原則：「まちづくり」の事業と活動を発展させます。
- 第4原則：「自立と協同と愛」の人間に成長し、協同の文化を広げます。
- 第5原則：地域・全国で連帯し、協同労働の協同組合を強めます。
- 第6原則：「非営利・協同」のネットワークを広げます。
- 第7原則：世界の人びとと連帯して「共生と協同」の社会をめざします。

★3つの協同

- 1：働く者どうしの協同
- 2：利用者・家族との協同
- 3：地域との協同

〒171-0014 東京都豊島区池袋3丁目1-2 光文社ビル6階
電話 03-6907-8030 (代表)
<http://www.roukyou.gr.jp/>





製作者からの
メッセージ



大きな不安の中で

この映画を受けることになった時、私はおおきな不安にかられていました。成果主義・効率優先の働き方や考え方が横行する中、一人ひとは切り離され、バラバラになり私たちの身の回りには格差が広がり、貧困が蔓延し、先行きの見えない閉塞した状況の中でどのように一人一人は生きていくのだろうかという不安でした。

この映画化の話があった時、真っ先に頭に浮かんだのはかつて聞いたある若者の言葉でした。「就職試験を40社50社受けて全部落とされると、もう自分なんてこの世の中で必要とされていない人間だって思えてくるんです」

その若者の不安は私の不安であり、多くの人たちが抱える不安でもあります。同時に孤立死・無縁社会という言葉が当たり前のように使われている社会。そこまで人間関係は壊れてしまっているのかと唖然とした思いを抱きました。

団塊の世代のすぐ後に生を受け、高度成長時代の真っ只中を過ごしてきた私には大きな衝撃でした。誰もが自分自身の人生を自分の足で生きていくことができる世の中であるべきだと考えて生きてきたはずなのに。いつのまにかそれとは程遠い、いやそれ以上に生きにくくなっている現実が今という時代だということを改めて思い知らされました。

仕事もない、将来への見通しも立ってこない。自分はようになっていくのだろうか、果たして自分自身の人生を生きることが出来るのだろうか。

3・11以来、いままでの社会の在り方、一人ひとりの生き方までが大きな価値の転換を求められているはずなのにちっとも変わらない日本。

どうしたらこの大きな不安を払しょくして一人ひとりが持ち味を発揮して生きていけるのだろうかということがこの映画で少しでも見ることが出来るのなら、と考えて取り組みました。

シゴト
イキガイ
キズナ



仕事 生きがい いのちの協同を

こころを合わせ、力を合わせ、助け合っでともに仕事をするのが協同だといいます。ワーカーズ取材して地域の人たちと結び合い、一人ひとりの問題を一緒に解決し、地域の新しい共同体をつくる試みの現場に立ち合わせていただきました。

それぞれの事業所ではそれぞれそ目いっぱい働くとともに地域の人たちとの協同をめざしています。しかし、地域は長い時間をかけてできたところ。そう簡単に受け入れられ、一緒に仕事ができるはずはありません。

撮影をしていてよく目にした風景があります。それは長い時間をかけ地道に議論が行われている様子です。それを見て私は思いました。時間がかかり、なかなか意見がまとまらず、答えもそう簡単にでてくるものではなく、やっかいなものであるかもしれない。しかし、その積み重ねの中から、これからの時代にあった地域とのつながりや新しい知恵も生まれてくるのではないだろうか。

時間がかかっても徹底した民主主義を貫くこと。そこから初めて地域の人たちと一緒に地域のためになる仕事を実現するのではないかと思います。そしてそれは自分の働き甲斐に通じるものであれば、より自らがやっている仕事に対する働きに喜びが感じられ、生きがい、誇りにつながっていくのではないのでしょうか。

地域には長い時間とそれによってつくられた人間関係が豊かに存在しています。その地域の豊かさに溶け込むと同時に、そこに新しいワーカーズと新しい協同が生まれることを期待してやみません。

新しい働き方をめざし、福祉社会を念頭において活動するワーズコープはバラバラになってしまった人間関係を取り戻すために、全国でその取り組みをはじめています。

日本ではまだ少ない協同労働という働き方。雇用労働や自営業のみならず新しい選択肢のひとつとしてこんな働き方を志向しているひとたちもいるんだということを考えていただければ幸いです。

映画「ワーカーズ」監督 森 康行

【プロフィール】 森 康行 (もり やすゆき)

1950年(昭和25年)2月22日、静岡県生まれ。1978年、短編の文化映画『下町の民家』(東京都の制作)で初監督。以後、数多くの短編記録映画を生み出すと共に、TVドキュメンタリーの演出をてがけている。

■主な作品: 高知県の高校生がビキニ被災漁船を追い、856隻もの日本の漁船が被曝していた事実を描いた『ビキニの海は忘れない』(1990年/キネマ旬報文化映画ベストテン10位)。同じく高知県の高校生が在日コリアンの高校生との友情を育む『渡り川』(1994年/キネマ旬報文化映画ベストテン1位・毎日映画コンクール記録映画文化賞)。夜間中学を描いた『こんぼんは』(2003年/キネマ旬報文化映画1位・毎日映画コンクール記録映画文化賞・第1回日本記録映画大賞)。93歳の教育学者大田堯を描いた『かすかな光へ』(2011年/キネマ旬報文化映画8位)など。





八広はなみずき児童館

2006年4月、墨田区の直営からワーカーズコープの運営に移行。乳幼児から18歳までの子どもたちが利用している。当初、一民間業者と見られていたワーカーズコープ。組合員（職員）たちは、コミュニティの核としての児童館を作ろうと徹底して地域に出ていった。小学校の統廃合に伴って、子ども会主催の餅つき大会を児童館が受け継ぐことになったが、若い職員は、本当にやれるかどうか不安を抱く。他の職員と話し合い、地域の方々に協力をお願いしながら、一緒に作り上げる苦勞を経て成長していく。

立花児童館

2006年4月、墨田区の直営からワーカーズコープの運営に移行。東武亀戸線東あずま駅のそば、立花一丁目団地の一角にある児童館。地域で支える子育てを構想し、地元の町会、民生児童委員、学校長などに呼び掛けて地域運営委員会を開催。親や地域の人の応援で新たな子育て支援の事業を起す。

〈内藤郁代さん〉愛知県出身。夫の転勤で東京に移り、保育園勤務を経て、2006年ワーカーズコープ加入。立花児童館館長を経て、現在、墨田エリアマネジャー。

いきいきプラザ

2004年12月に墨田区が設置し、ワーカーズコープが運営する元気高齢者施設。年間60,000人が利用し、健康づくりや生きがい活動を行っている。

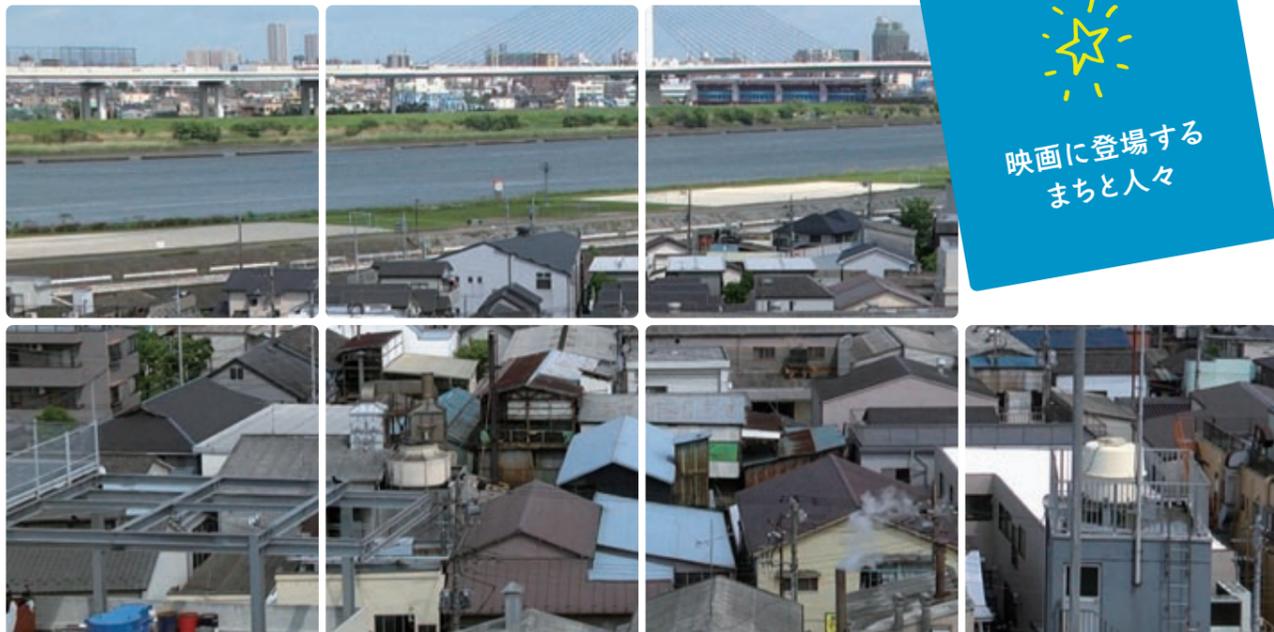
〈高浜和行さん〉1954年東京都荒川区出身。1977年より東京都中学校保健体育科教諭として教職に従事。2006年よりワーカーズコープに入り、いきいきプラザのトレーニング指導員として勤務。2008年より同施設長。ワーカーズコープの介護予防事業（健康体操、ウォーキング）の責任者として、養成講座の企画や各地での講演・指導などを行っている。日本ウォーキング協会公認指導員、介護予防運動指導員、墨田区介護予防サポーター養成講座講師。

あゆみケアサービス 玉ノ井プラザあゆみの舎

2000年4月、介護保険スタートと同時に訪問介護事業を中心に、墨田区鐘ヶ淵に事業所を設立。地域のネットワークを生かして介護保険事業だけでなく、家探し、大掃除、引っ越しから生活保護の申請補助や亡くなった後のお葬式まで、地域のネットワークを最大限生かし、高齢者の生活を丸ごと支える活動を行っている。2012年7月、玉ノ井地域に、泊まりも備えた小規模多機能型の介護施設を建設した。

〈大谷みちこさん〉家政婦紹介所の登録ヘルパーという身分の不安定さに疑問を感じ、そこを飛び出して2000年ワーカーズコープに加入、あゆみケアサービスを設立。現在、あゆみケアサービス所長、玉ノ井プラザあゆみの舎所長。

〈銭谷黎子さん〉介護が必要な母親と二人で暮らしながら、あゆみケアサービスの訪問介護をはじめ福祉サービスを利用するとともに、近所の人たちや八百屋さんなど多くの人の支えで生活している。



ショートコント 松元 ヒロ

【プロフィール】1952年10月19日、鹿児島県生まれ。鹿児島実業高等学校、法政大学法学部政治学科を卒業後、プロのパントマイマーとなり全国を巡り、コミックバンド「笑パーティー」のメンバーとしてコントの世界に進出。独自のマイムコントの世界を創造する。1985年「お笑いスター誕生」で優勝。1988年コント集団「ザ・ニュースペーパー」の結成に参加。村山前首相を演じ注目を集める。以後一人芝居やマイムのニュースなどキャラクターを活かした独特な舞台でその個性を発揮。1998年11月独立以後、定期ソロライブ開催はじめ、全国各地のイベントなどにゲスト出演するなど、活躍の幅を広げ続けている。その芸は2005年放送のNHK-BS2「立川談志・日本の笑芸百選」にも選ばれるほど定評がある。





◆大田 堯 (教育研究者)

地域おこしと結んだ仕事づくり。それを協同して仕上げる若い人間。
労働者のいきいきした活動。映像が語る、明日の社会を啓く第一歩に感動。

◆片岡 輝 (詩人・東京家政大学名誉教授)

時代の転換期にあり、あらゆるものの見直しがせまられている。
変わらなければいけない、変えなければならぬと考えている皆さんにぜひ見て欲しい!!
非人間化への動きをストップさせる答えがこのドキュメント映画の中にある。

◆太田政男 (大東文化大学 学長)

<コミュニティの結い直しと人間の新しい生き方>

映画で見るワーカーズの事業は、乳幼児から高齢者まで人間の一生にわたり、いのちのいとなみに寄り添うものである。
そのために、かつて存在した人間のつながりを現代によみがえらせる企てであり、コミュニティを結い直すものである。
そこで働く若者、女性、高齢者は、その事業をととして人間の新しい働き方、生き方を創造している。



(順不同・敬称略)



◆新澤誠治 (保育・子育てひろば推進センターみずべの会代表)

年寄となり福祉の現場から離れた者ですが、
この映画を見て、もう一度地域の中で支え合い分かち合う仕事をしたい。
人のつながりの中で、自分を発起、発揮し、社会に貢献する仕事をしたいと思う。
私は映画に感動し、3回もDVDテープを繰り返し見て、
何枚にも及ぶ感想を書いてしまいましたが、
この映画が多くの人に見られる事を心から願います。

◆齋藤哲夫 (ミュージシャン)

この映画はバラ色の未来像が描かれちゃいない。むしろ不安材料満載の重たい映画。
そんな重たいシーンの連続の中で地域の人たちと、ワーカーズコープとの
助け助けられ合いが描かれていたドキュメンタリー。
この映画には未来を明るくするヒントがちょっぴりだけあるような気がする。

◆寺脇 研 (映画評論家・京都造形芸術大学教授)

名前を聞いて、ワーカーズコープって何?と戸惑う方が少なくないだろう。
かく言うわたしも、正確に説明できるかどうか疑わしかった。
でも、この映画を観れば、その精神、その活動がたちどころに理解できる。
手練れのドキュメンタリー作家・森康行監督が追う活動者たちの姿が、
ワーカーズコープの存在意義を雄弁に物語ってくれるからである。



ナレーター 宮崎 美子
ショートコント 松元 ヒロ
企画・原案 永戸 祐三
撮影 西島 房宏
音楽加藤 加藤 敏樹
音響効果 八重樫 健二
編集 古賀 陽一
プロデューサー 川邊 晃司
成田 誠
監督 森 康行



「ワーカーズ」製作委員会 堀田 剛
青山 千詠子
古賀 直子
服部 公紀
高岡 圭介

協力 バル墨田
あゆみケアサービス
八広西八町会
白髭東第一自治会
玉の井町会
墨田区立立花東町会
立花一丁目団地六号棟自治会
とんかつ あづま
白井泰治
二葉クラブ
ウィルケアセンター
柳原リハビリテーション病院
医療財団法人 健和会 すみれ訪問看護ステーション
医療財団法人 健愛会 クリニック柳島
ジャパンケア

製作・著作 日本労働者協同組合(ワーカーズコープ) 連合会センター事業団

配給 一般社団法人 日本社会連帯機構
日本労働者協同組合(ワーカーズコープ) 連合会

2012年/日本/ドキュメンタリー/94分/カラー/16:9/HDCAM
映画公式ホームページ <http://www.workers-movie.com>

Workers

ワーカーズ

自主上映のススメ ～みなさまの地域で上映会をしてみませんか～

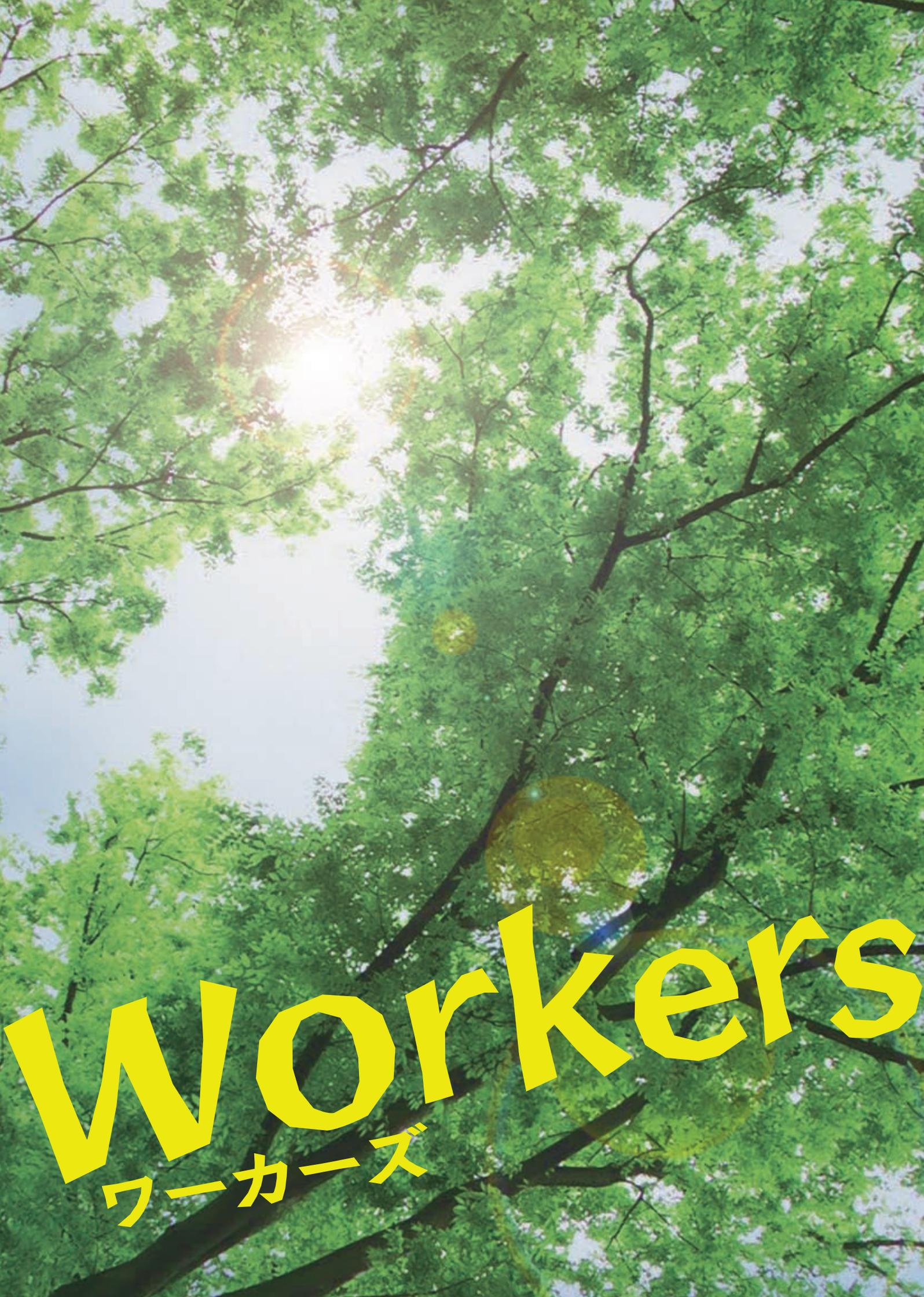
団体・グループ・地域・イベントなど、趣旨にあわせて独自の上映会が可能です!
上映形態・規模は問いません。資料請求・ご相談・ご不明な点など、お気軽にお問い合わせください。

上映費用(映画 Blue-Ray Disk(ブルーレイ)代など)を配給元の映画「ワーカーズ」全国
上映普及委員会へお支払いいただきます。上映機材セット(有料)やチラシなど各種宣伝材料(有
料)のご用意があります。ご希望の方には、上映までの流れがわかる手引き書をお渡ししています。
☆映画公式ホームページでも詳細をご覧ください。(pdfダウンロードあり)



■お問い合わせ先■ 映画『ワーカーズ』全国上映普及委員会

〒171-0014 東京都豊島区池袋3丁目1-2 光文社ビル6階 日本労働者協同組合ワーカーズコープ連合会内
TEL 03-6907-8032 FAX 03-6907-8031 E-MAIL workers-movie@roukyou.gr.jp



Workers

ワーカーズ